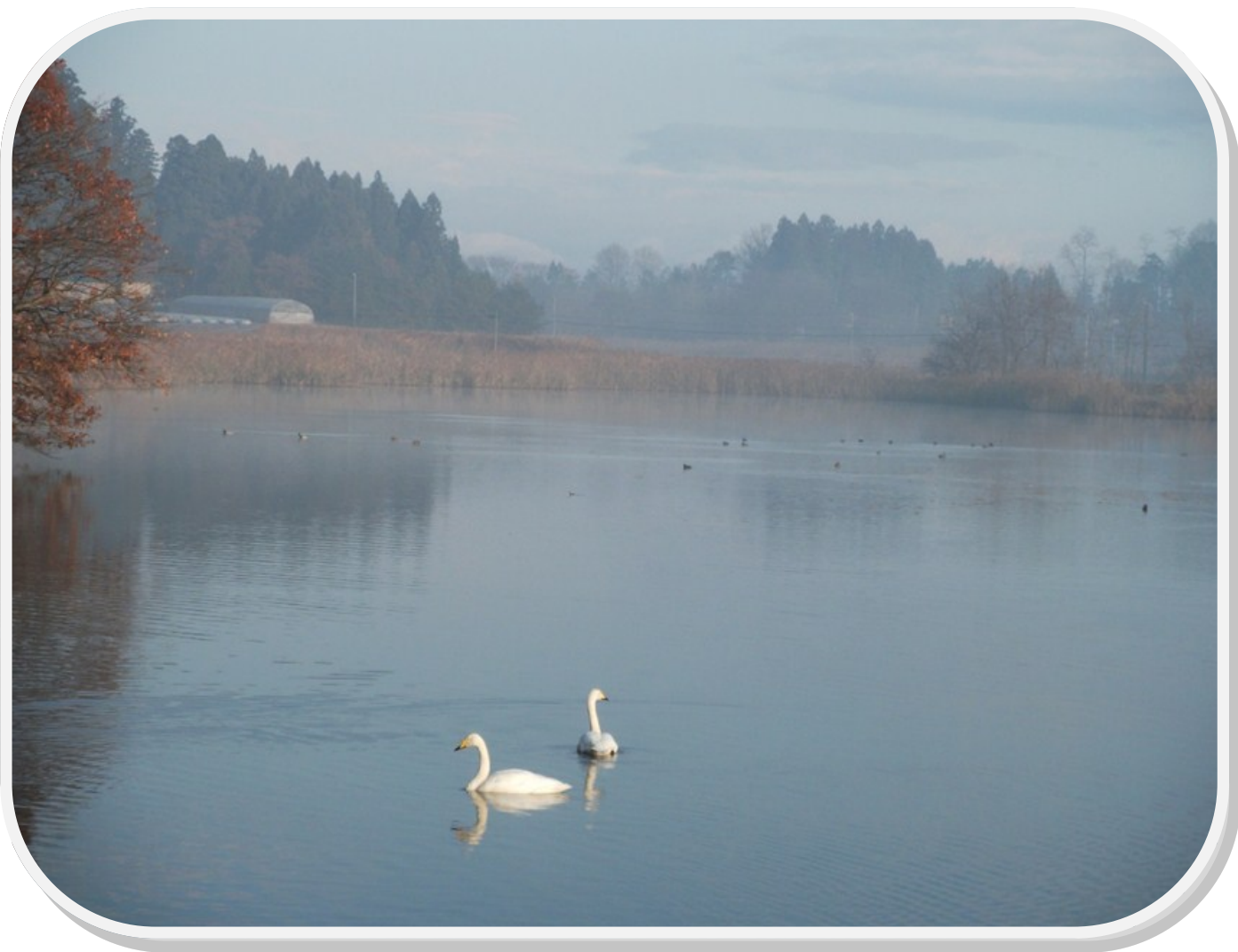


松崎行政区総合計画

将来像 「笑顔であいさつ元気な松崎」



平成26年度～平成30年度

松崎行政区

松崎行政区の特性

人口	313人（男性 162人：女性 151人）
世帯	80戸

※平成25年11月25日現在

松崎地区は中島村の北東部に位置し、山林が散在する小丘陵地帯に水田と畑地が広がり、南東部に位置する阿武隈川と水田及び那須連峰等の山々の織り成す景観は松崎地区からが最も美しいと称しています。

JR水郡線野木沢駅まで3km、国道118号線まで4km。JR東北本線泉崎駅まで11km、国道4号線まで11kmと、村内行政区の中で交通事情の変化はあるものの石川町との交流が深い地区です。地区を通る県道139号は中島村でも主要道路であり、年々変化する道路事情から交通量は増加傾向です。

近年の地区人口はほぼ横這いではありますが、若い世代の流出等による少子高齢化は地区でも例外ではなく、近年は第2種兼業農家がほとんどであり、耕作放棄地が少しずつ増加しております。

地区は、松代・松美・上井・中井・月山・住吉・沼和久・新石・池向・原田・高坊地・戸面沢 権現山・犬ヶ窪・善棚・分切・袴館・大池西・城見坂の字内に住宅が存在し、他に下井・向河原・堀ノ内・西川・鷹ノ囟・池下西・三ッ池・堀切・山根・上池・横池・田向・下之前・堂ノ入・大池上・大池下の字があります。

概 略	
1889年 明治22年	明治政府の町村制実施から松崎村と滑津村が合併
1955年 昭和30年	滑津村と吉子川村が合併して中島村誕生

※資料編 ⑤松崎地区の沿革参照

平成19年度から平成24年度まで「農地・水・環境保全向上対策事業」に中島村で唯一取り組んだ行政区であります。文字通り地区の農地環境、水生生物など、地域資源の保全と活性化を図りました。

I. 松崎地区行動計画 目標・スローガン

現状と課題

- ① 地区民の交流の希薄化
- ② 集落内道路並びに河川・池周辺の美化



行政区の将来像

笑 顔であいさつ元気な松崎

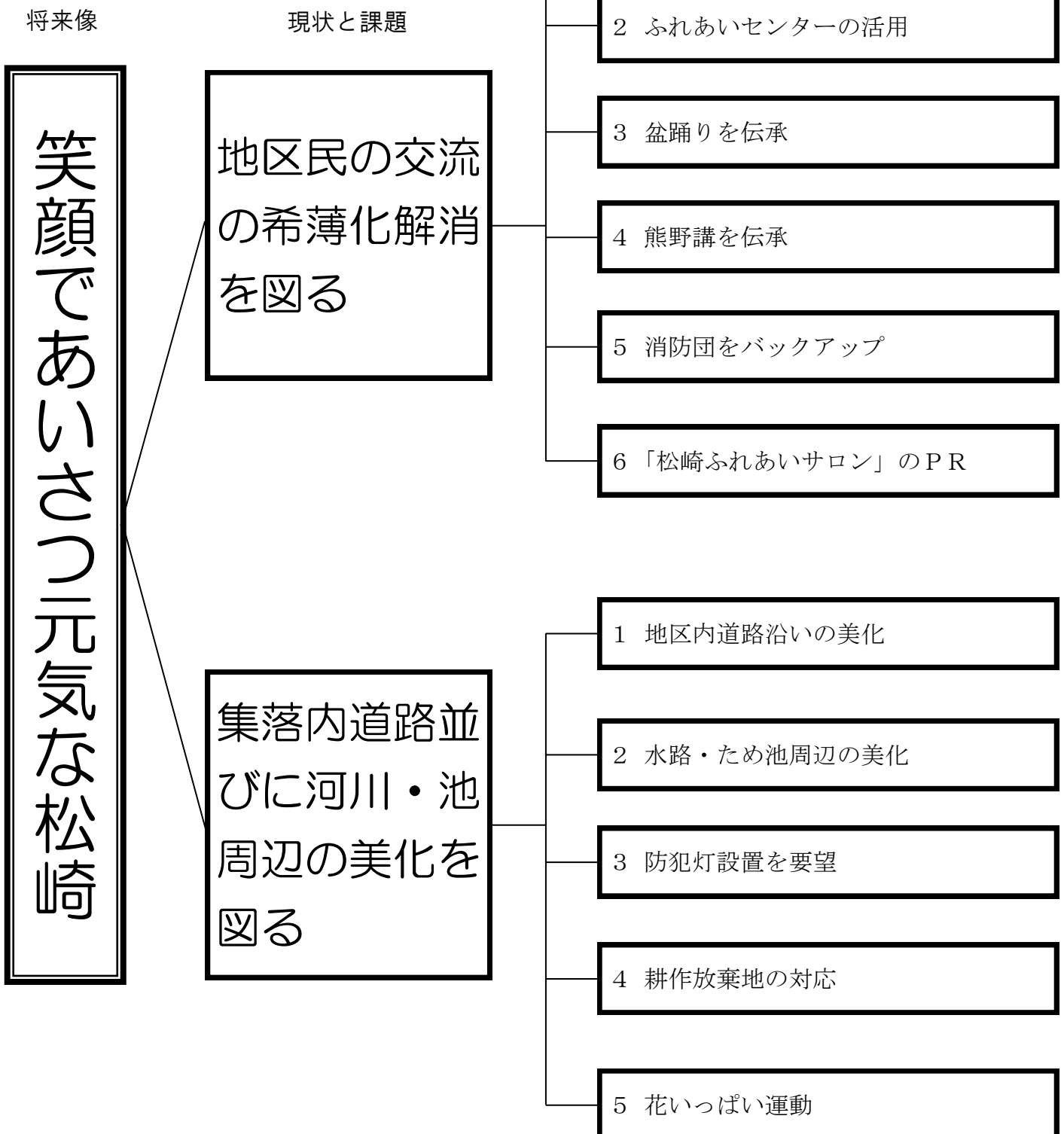
行政区のスローガン

「人が集まるふれあいセンターづくり」

Ⅱ. 松崎地区行動計画

行動計画の概要

具体的取組み



具体的な取り組み

以下について松崎行政区で取り組むこととします。

① 地区民の交流の希薄化解消を図る

1 あいさつ・声かけの実践

- ・ 子供からお年寄りまで元気にあいさつすることに努めます。
見守り活動も兼ねます。
- ・ 松崎ふれあいセンターに看板を設置します。

2 ふれあいセンターの活用

- ・ 「集まり易い」「行き易い」「使い易い」施設運営に努めます。
- ・ カレンダーなどを置くことにより、使用予定を分かりやすくします。
- ・ 行事を行う際、不便をきたす台所、トイレ等の改善を村へ積極的に要望します。

3 盆踊りを伝承

- ・ 老人クラブの協力を得て、踊り方の学習会を行います。
 - ・ 盆踊りの時間配分を検討するなど、地区伝統として盛り上げたいです。
- 実行団体：松崎成年会、地区老人クラブ、地区子ども育成会

4 熊野講を伝承

- ・熊野講の由来等の伝承に努めます。
- ・みんなが参加できるような、盛り上がる行事にしたいです。

5 消防団をバックアップ

- ・消防活動に協力し、ケガをしないよう努めます。簡易な作業、山火事時の水利案内など。

6 「松崎ふれあいサロン」のPR

- ・気軽な「お茶飲み」として交流を図るサロンのPRに努めます。
- ・高齢者の引きこもり防止も図ります。

実行団体：地区健康推進員、地区老人クラブ

② 集落内道路並びに河川・池周辺の美化を図る

1 地区内道路沿いの美化

- ・全村一斉クリーンアップ時に清掃活動を集中的に実施することに努めます。
- ・状況によっては、地区内だけでの清掃活動も検討します。
- ・看板設置などでポイ捨て防止策を図ります。

2 水路・ため池周辺の美化

- ・これまで同様、地区住民協力してきれいに保つことに努めます。

3 防犯灯設置を要望

- ・ 通学路に重点を置いた防犯灯設置を要望し続けます。
- ・ L E Dの防犯灯設置を要望します。

4 耕作放棄地の対応

- ・ 耕作放棄地を増やさないよう努めます。
- ・ できる限り地区「担い手」に依頼を図ります。

5 花いっぱい運動

- ・ 松崎ふれあいセンターをメインとした花いっぱい運動を展開します。
実行団体：地区老人クラブ、地区子ども育成会



資料編

①	松崎の神仏
②	松崎の遺跡
③	松崎の行事風景
④	松崎の自然、風景
⑤	松崎地区の沿革
⑥	松崎の祖
⑦	平成24年度松崎行政区ワークショップ
⑧	松崎地区総合計画策定委員会経過報告
⑨	平成25年度松崎行政区総合計画策定委員会委員

① 松崎の神仏



白山姫神社

大字松崎字上井地内

石川県白山市三宮町にある白山比咩神社(しらやまひめじんじゃ)を総本社とする、全国に2,000社以上ある白山神社のひとつ。

石川県・岐阜県の県境に立つ白山(標高2,702m)を神体山として祀る神社である。



薬師堂跡

薬師堂は明治のはじめ壊されており、石仏、石塔も放棄された。

小針氏の創建によるもので、その奥の「字堂の入」に小針氏の(薬師如来)墓地が明治維新まであった。



熊野（大権現）神社

紀州（三重県）熊野本宮（小針悦吾氏竹林の中にある）源頼義、義家親子が天喜3年（1055年）「前九年の役」で陸奥征伐に赴く際、武運を祈って、会津に勧請創建したのが始まりと伝えられる。

権現とは仏、菩薩が仮に姿を変え、神としてこの世に現れたものを言う。



愛宕様

宮本敏夫氏宅北北西の地にある。



子安様 天王様

小針誠氏屋敷西方の地にある。



山神様

国井泰幸氏後坂道途中左手にある。

② 松崎の遺跡



白山姫神社下磨崖仏群(村指定文化財)

大字板崎字上井地内

年代不詳(13世紀~14世紀頃)

白山姫神社境内にあり、県道北側の10余メートルに及ぶ絶壁下部に多くの磨崖仏が刻まれている。



松崎横穴遺跡(通称えぞ穴)

大字松崎字堂ノ入 7世紀前半

この周辺では現在まで26基の横穴墓と3基の円墳が確認されている。12号横穴墓は、玄室、玄門、羨道、墓前域、小横穴から構成され、玄室には遺体を安置していた。

玄門付近から出土した鉄製の直刀は、長さ85.0cmで、刀装具の一部が残っていた。



えぞ穴

江戸時代末期から明治時代の末期に至るまで、横穴墓を流浪の旅人などが一時的住みかとして利用していた。



横穴石仏

横穴が造られている崖壁上の丘陵高台地は、薬師堂の廃寺跡であり、明治維新の神仏分離令により毀棄された石仏を安置したものである。

③ 松崎の行事・風景



熊野講

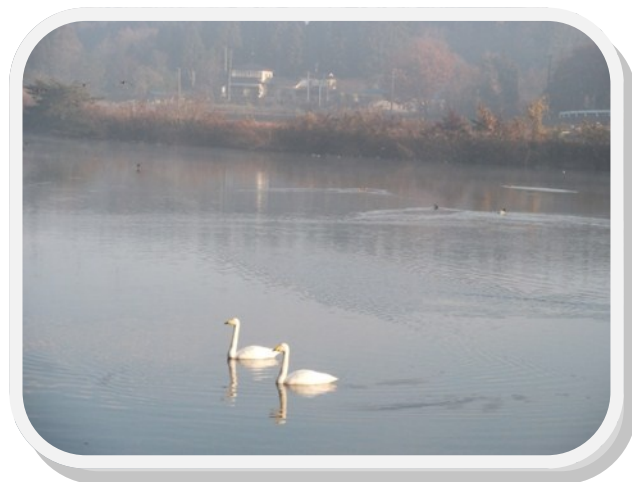


松崎ふれあいサロン

④ 松崎の自然・風景



鷹の図



大池の白鳥



風景 1



風景 2



松崎ふれあいセンター



墓地

⑤ 松崎地区の沿革

年 月	出来事
明治12年1月27日	白川郡を西白河郡と改称する。
同 年4月	松崎村と滑津村は戸長役場となり、役場を元村に置く。
明治16年4月	矢吹戸長役場の治下となる。
明治22年3月25日	滑津村と松崎村が合併して滑津村となる。
明治22年4月 1日	吉子川村と滑津村は組合村となり役場を二子塚に置く。
明治44年3月31日	同組合村を解除する。
明治44年4月 1日	滑津村が独立して役場を元村に置く。
昭和20年8月15日	敗戦 8月10日ポツダム宣言受諾通告（15日放送）
昭和30年1月 1日	吉子川村と滑津村は合併して中島村となる。
昭和34年～35年	中井地区 区画整理する。
昭和45年	農業集落電話開通する。
昭和47年	松崎公民館できる。※松崎部落行政改革
昭和48年	中島村内有線放送開始する。
昭和50年～53年	大池上下地区区画整理する。
昭和50年	母畑～白河線・松崎バイパス工事始まる。
昭和51年	代畑～松崎道路舗装する。
昭和52年	中島村内水道整備する。
平成12年	集落排水工事終了。

⑤ 松崎地区の沿革

松崎地区の各戦没	従軍者数	戦死者数(合掌)
日清戦争(明治37年)	3名	
日露戦争(明治37年)	14名	1名
第1次世界大戦(大正3年)	無	
満州事変(昭和6年)	3名	
日中戦争(昭和12年)	11名	1名
太平洋戦争(昭和16年)	49名	15名

(参考)

太平洋戦争(大東亜戦争GHQの指令で使用禁止された)約4年間の戦いで兵士の約230万人、一般人70万人の尊い命が失われた。

都市空襲に遭い223万戸の家屋が焼失し、約970万人が被災した。

旧満州国に駐留していた兵士約60万人が旧ソ連が不法にシベリアに抑留して、極寒の地で、満足な衣食を無く、強制労働で約6万人の命を失われた。

⑥ 松崎の祖

石川有光（三芦城主）^{みよし}の長男光祐の次男光治が大寺二郎と称して、藤田城（現在の石川町中野地区）を嗣いだ。光治を初代として大寺家八世光晴が松崎氏を嗣いだ。大寺氏が阿武隈川西岸の地に、西の守りとして居館（袴館）を構築して松崎一族郎党を住まわせた。

石川氏の西の守りから「にしがわさま」とされ「ニシガワ」の地名が松崎郷の東側に位置して、西側と呼ばれるゆえんである。

村史より

松崎の地名は、袴館城主松崎氏によるとされ、松崎氏に隨身したと伝えられる「宮本 国井 鈴木」三代の菩提寺が明治維新まで存続しており、小針氏を含めて明治中期まで四氏の屋敷が区画され、その名を名乗った。

小針氏は常州街道（浅川く須賀川）を隔てた西部屋敷から山地丘陵を占有したといわれる。小針氏は元龜年間に来村した小針五郎左エ門を祖としている。

村史より

小針五郎左エ門（一五五八年）当村「さわめき（ざわめき）」と言う所を貫き、養水を引ききて田所を開発し」とある。

白河城主本多忠義の命により下池を廃し、大池を構築した。これにより荒地を開田した所が古新田と称される。

白河風土記より

松崎は郡大膳の給地と言われる、常州の駅前なり、村の中程に高札場あり、官より命ぜらるる、掟条目を掲ぐ」

浅川く須賀川間の中間の駅で阿武隈川に舟場があり、「ふなば」の地名も残り、道路名は「ふなばみち」と現在も呼ばれている。「ふなばみち」から寺の坂（てらん坂と呼ぶ）を登り右方の高台地が蓮花寺（廃寺跡）で、村の中ほどに至ると、高札場があり、官より命ぜらるる掟条目を掲ぐとの記録で、高札場は駅前と並んでいたとみられる。駅前には、問屋があり、主として公私の荷物の運搬を取り扱っていた。

※1 石川有光 一〇三七く一〇八六 平安時代の武士「もともとは源有光」奥州石川氏第二代当主。

⑦ 平成24年度松崎行政区ワークショップ



ワークショップを終えて。

ワークショップとはもともとは演劇用語で、色々な人が意見を出し合ってお芝居をつくっていくときに用いた言葉でした。いまではある課題について多くの方々の意見を持ち寄って、話し合いながら新しい方向を考えていくという作業のことをさします。

松崎行政区では平成24年度に地域住民、行政（役場職員）、宇都宮大学農学部守友裕一教授と守友ゼミ学生の三者で2回のワークショップを行いました。その成果は松崎行政区総合計画の策定にあたって大いに活用されました。



集落点検ワークショップ（平成24年7月21日開催）

実際に地域を歩いて見て回り、地域の良いところ、自慢できるところ＝お宝や、問題点を発見していく作業を行いました。



地域活性化ワークショップ（平成24年8月19日開催）

前回の集落点検ワークショップの結果をふまえて地域の課題や問題点をどう改善していくのか、また、それを誰が、どのように進めていくのか等について話し合いました。



ワークショップ報告会での学生による説明。



同報告会で住民代表による感想発表。



集落点検ワークショップの成果。



地域活性化ワークショップの成果。

⑧ 松崎行政区総合計画策定委員会経過報告

第1回松崎地区行政区総合計画策定委員会	
日 時	平成25年11月3日（日）
場 所	松崎ふれあいセンター
協議内容	村企画振興課からの計画づくり説明及び協議

第2回松崎地区行政区総合計画策定委員会	
日 時	平成25年11月20日（日）
場 所	松崎ふれあいセンター
協議内容	・「現状と課題」を委員より出し合い、分析して2つに絞る
	・将来像を決定
	・目標・スローガンを決定

第3回松崎地区行政区総合計画策定委員会	
日 時	平成25年12月2日（月）
場 所	松崎ふれあいセンター
協議内容	・計画（案）の確認
	・役割分担

平成25年度松崎行政区総会	
日 時	平成25年3月9日（日）
場 所	松崎ふれあいセンター
協議内容	計画（案）の承認

⑨ 平成25年度松崎行政区総合計画策定委員会委員（順不同）

役 職	氏 名	備 考
会 長	小針 美己	松崎行政区区長
副会長	小針 久則	松崎行政区副区長
委 員	小針 徳秀	ワークショップ事業委員
委 員	宮本 泰芳	中島村民生委員会
委 員	近藤 義幸	松崎地区農業委員代表
委 員	宮本 陽子	ワークショップ事業委員
委 員	宮本 栄子	ワークショップ事業委員
委 員	有松 保則	ワークショップ事業委員
委 員	小針 昌彦	松崎子ども会代表
委 員	小針 将敬	やぐら保存会代表
委 員	国井 淳一	中島中学校PTA松崎地区代表
委 員	小針 義男	ワークショップ事業委員
委 員	宮本 馨	松崎地区老人クラブ代表
委 員	小針 知倫	中島村消防団第1分団第6部代表
委 員	藤島 仁	松崎子ども会代表
委 員	小林 隆	松崎行政区担当職員
委 員	緑川美智子	松崎行政区担当職員
委 員	高久 香子	松崎行政区担当職員

松崎行政区